

第50回 ゴルフコンペ記念誌

会新日





絵「晩秋の八ヶ岳山麓」：昭和 33 年卒 飯田富美子
題字：昭和 48 年卒 森田珠美



会則

第一章 総 則

(名 称)第一条 この会は、日新会ゴルフ倶楽部(以下日新会GC)という。

(事務所)第二条 この会は、事務所を会の代表の住居に置く。

(目 的)第三条 この会は、ゴルフを通じ会員相互の親睦を図ることを目的とする。

(事 業)第四条 前条の目的を達成するため、この会は次の事業を行なう。

- 一. ゴルフコンペの開催
- 二. その他必要な事項

第二章 会 員

(会員の種類)第五条 この会の会員を分け次の二種類とする。

- 一. 普通会員
- 二. 特別会員

2. 普通会員は、山梨県立甲府中学校又は山梨県立甲府第一高等学校(以下母校と云う)の卒業生及び
母校に在籍した者で首都圏に在住する者並びにこれに準ずる者とする

3. 特別会員は、会が推薦又は承認した者とする。

第三章役員・第四章会議・第五章会計・第六章雑則は紙面の都合上省略

東京同窓会ゴルフコンペ第1回大会を昇仙峡カントリークラブにて開催した 平成元年10月28日(1989年)をもって設立日とする。

目 次

井上 幸彦 (31年卒)	日新会ゴルフコンペ50回記念大会に寄せて	1
寺田 忠徳 (28年卒)	日新会ゴルフ創成期	2
中澤 彬 (32年卒)	日新会とゴルフ	4
飯田 富美子 (33年卒)	日新会ゴルフに初めて参加した懐かしき日々	5
成瀬 祐由 (33年卒)	日新会の思い出	6
小森 始 (34年卒)	日新会の発展を期待します	7
望月 政男 (34年卒)	ゴルフとテニス	10
広池 哲夫 (37年卒)	日新会の力強い継続を願って	11
野中 章行 (47年卒)	日新会を振り返って	12
島田 三郎 (48年卒)	17番ホール119yd ホールインワン	13
林野 妙子 (48年卒)	ついに女子の部優勝	14
小川 朗 (53年卒)	日新会	15
小田切 仁 (56年卒)	初めて参加した日新会ゴルフ	16
小森 始 (34年卒)	日新会ゴルフ開催記録	17

日新会ゴルフコンペ 50回記念大会に寄せて

甲府中学・一高東京同窓会 会長 31年卒 井上 幸彦

日新会ゴルフコンペがこの程50回目の節目の時を迎えることとなった。思えば先輩方が一高同窓の親睦を深めることを目的として始めた本大会が25年の長きに渡って開催され続けてきたことは大変意義深いことです。

私もある時期から参加するようになりましたが、思い出深いエピソードをひとつ。

会場がまだ大月カントリークラブであった頃のこと（2004年6月）同コースの10番ホール・パー5で第3打をピッチングウェッジでフワッと打ったところ数バウンドしてカップイン イーグル達成となりました。（私には4回目のイーグル）

この時ゴルフ場側が写真を撮っていたので第3打を打った時のボールがピン方向に向かっていく様子が写っていて、当然記念に買い求めた次第。表彰式において先輩の心遣いにより特別賞を授与して頂きありがたく頂戴したものです。

ある時期からこの運営も、幹事を学年ごとに申し送ってやるスタイルとなりましたが、本大会がいつまでも一高同窓会の憩いの場として永続することを希うものです。

日新会ゴルフ創成期

28年卒 寺田 忠徳

甲府中学・甲府一高東京同窓会会員の横・縦の交流を深め、さらに絆を強くすることを目的に青空の下で一日ゴルフプレーを通じ語り合う事とした。

発起人は12年卒の柳沢清氏で多人数の参加を募るためにも経済的負担をいかに軽くするか考えられ、優勝杯は29年卒の山本氏（当時甲府市長）に寄贈をお願いし、個人賞は26年卒の飯田知雄氏（当時東武百貨店副社長）に寄贈いただき、当日のパーティーの飲み物は17年卒吉田富士雄氏（当時サントリー副社長・同窓会会長）をお願いした。また参加者を多くするため学年別団体賞も設けた。

上記準備の上、昭和64年春 昇仙峡カントリークラブで第1回日新会ゴルフコンペが開催された。3回目から長く会場となった金之台ゴルフクラブは、12年卒の輿石陸氏が理事を務められているご縁があったと記憶している。小生はこの金之台ゴルフクラブから参加させていただくようになった。

平成3年吉田会長ご逝去、バブル崩壊により飯田氏退任され援助が打ち切りとなる。個人賞は38年卒武内紘司氏他有志の寄贈を仰ぐ。

甲府中学・甲府一高同窓会東京支部が設立されて半世紀、日新会が設立されて四半世紀となる。先人石橋湛山名誉会長の残された遺訓「Bee Gentleman」淑女たれ・紳士たれを育んで継承する場として後輩に引き継ぐ責務があると思う。

日新会の発足以来15年余りを小生が事務局を担わせていただき、次の10年余りを31年卒の石井氏・小池氏・角田氏・原氏が引き継いでくれ、それから34年卒の小森氏・森田氏・望月氏次に37年卒の広池氏・石渡氏・荒井氏・佐藤氏と引き継ぎ現在47年卒の野中氏と48年卒の島田氏が取り纏め役をしてくれている。世話役として代々ご尽力いただいている。

先人の火をバトンタッチしてきたが、この先、人の動員そのための費用等を考えると日新会メンバーだけでは限界があると思うので東京同窓会の活動の一環として認めてもらい協力していただく必要があるように考える。

創成期のメンバーのお名前を記載させていただく。もし記載漏れがあったらご容赦願いたい。

11年 新津成美

12年 柳沢清 輿石陸 西山保一 清水源教

17年 吉田富士雄 立川孝幸

18年 柳沢十四男 小田切逸郎 渡辺喜一

19年 伴野匡

20年 水本新平 小池隆雄 秋元秀次 寺田礼之 古屋敏夫

23年 飯野亨 秋山哲朗

25年 斎藤邦弘 有賀功 寺田孝行

26年 千野逸平 武内良祐 喜多島豊三 芦沢利彰 青沼英明 鎮目晴雄

27年 鈴木増穂 小林治己

28年 西宮俊雄 市川幸治 大久保亨 名取逸平 稲垣文三 寺田忠徳

38年 武内紘司

敬称は略させていただいた。



2014年9月 寺田氏を囲んで 48年幹事 林野・篠原 九段下 グランドパレスにて

日新会とゴルフ

32年卒 中澤 彬

千葉に家を持つというと、会社の口の悪い先輩が「君、大河の向こうは魑魅魍魎が住むところだよ」と笑い、甲府の兄弟からは「縁を切るつもりか」とさえ言われた。毎日深夜に帰宅する生活では遠い家は辛い。それにゴルフをしたいが、八王子方面の会員権はとても手が出そうもない。通勤時間と週末のゴルフを両立するには総武沿線しかなかった。

日新会のゴルフに参加するようになったのは会社を辞めてからだが、卒年別の団体戦は実に楽しい。32年組は参加者も多く、何時も上位に顔を出している。最近は少し惚けたのか表彰式の後で歌う校歌が頭に残り、コンペの後、数日は庭のバラを見ながら「日に新た、また日に新た…」と口ずさんでいる。

それにしても八王子の相武カントリーは千葉からはあまりに遠く、やはり無理をしても中央線沿線に家を持つべきだったかと今は後悔している。



39回コンペ 2009年6月4日 相武カントリークラブにて

日新会ゴルフに初めて参加した 懐かしき日々・・

前一紅会会長 33年卒 飯田 富美子

私が日新会ゴルフに初めて参加したのは、元東京同窓会会長渡邊喜一さんが理事長だった平成16年富士河口湖ゴルフクラブでした。

丁度一紅会会長に就任した時でもあり、当時の世話人、斉藤先輩から「これからは女性に積極的に参加して頂きたいので、まずは会長のご参加をお願いしたい。」とのお誘いに怖いもの知らずで参加。

当日は82名の参加者・内女性2名。

パーティーの席ではスコア149の私にメーカーとしてご挨拶をと、「コンペに初めて参加させて頂きました。がやさしい先輩とご一緒に楽しくプレイできました。バンカーが難しくてなかなか出ませんでしたが来年はもっと練習をして頑張ります。」と、「コッピト頑張れシー」と大声で大先輩たちからエールを送られたこと。翌年も同じメーカーのご挨拶をしたら「イッサラうまくなってないジャン」と言われたことが懐かしく思い出されます。

今や女性の参加者も増え活性化しているご様子。大変うれしく思っています。

これからもより一層のご隆盛であることを願い、第50回記念をお祝い申し上げます。

日新会の思い出

33年卒 成瀬 祐由

日新会に最初に参加したのは今から15年ほど前、33年卒のゴルフコンペ「さんさん会」で当時の幹事からの誘いによるものでした。当時はまだ現役で会社も大変厳しい状態でしたが日新会の先輩後輩の楽しい雰囲気ですっかり惚れ込んで以降、ずる休みを取りながら33年のゴルフ好きの仲間と欠かさず参加しています。

この間33年組は学年優勝2回、個人優勝4回を達成し強豪の31年や34年に伍して頑張ってきたことを密かに誇りとしています。

中でも6歳年上の兄と私が同時に2位と優勝を達成し併せて学年優勝もできた2009年の大会は忘れられません。「前週兄弟2人都留CCで直前キャンプを張ってきた賜物です。」と冗談交じりに挨拶したのを良く覚えています。残念ながら兄は81歳になって参加できない状態ですが6歳も年齢差があるため小さい時から一緒に遊んで楽しい覚えをしたことがほとんどなかった2人にとって本当に忘れられない大切な思い出になりました。今年は目出度く75歳になり後期高齢者となりましたが出来ることならエージシュートを達成したいものと健康維持も兼ねてささやかな努力を続けています。

今後とも体力の続く限り日新会には参加させてもらうつもりでいます。

幹事の皆さん本当にご苦労様です。

今後とも日新会が末永く続くことを心より願っています。

日新会の発展を期待します

34年卒 小森 始

35回大会から40回大会までの3年間34年卒が幹事を引き受け、私が事務局業務を担当しました。日新会は、昭和20年代卒のメンバーによりスタートし、若手で常連の参加は34年卒くらいで限られていました。私たちが幹事になってこれからの発展のためにやるべきことを考えました。まずは、若手の人たちに参加していただく会にしたい、日新会を東京同窓会のゴルフコンペとして定着させ、継続発展していける体制にしたいと考えました。そのために、東京同窓会総会での開催案内や、インターネットによる幹事への連絡、遠方参加者の利便のためスタート前のミーティングをなくして書面案内に切り替え1人でも多くの人に参加してもらえる体制づくりに取り組みました。

次に賞品の配分については持ちハンディキャップ制の団体戦偏重から、新ペリアでの団体戦、女性優勝、グランドシニア優勝、その他の賞を追加導入して幅広く参加者に賞が与えられるよう配分を変更しました。団体戦で60歳に到達すると15のハンディキャップが与えられますが、その年齢に達するまでは団体戦で入賞することはほとんどありませんでした。また、ゴルフは年齢を重ねてもまずまずのスコアでプレーすることのできるスポーツです。年配者だけモチベーションが高まるハンディキャップでは若手の参加者が増えないと、賞品配分を見直したつもりです。これからも幹事学年の方々が種々ご配慮され日新会のますますの発展のために種々努力して頂くよう期待しております。

今回この記念誌までご用意いただき感謝の至りです。

大会の記録

1・コースの変遷

大会は第1回目が昇仙峡 CC で、2回目は紫 CC すみれコースで開催されたが、決まったコースで開催ということになり、所属メンバーがおられた茨城の金之台 CC で第3回大会から15回大会までの7年間開催、その後山梨の参加者にも便利ようと富士河口湖 GC で3年間、次にやはり県内の大月 CC で23回大会から29回大会まで開催、設立から26回大会まで実に13年間の長きにわたり25年卒野球部出身の斎藤邦弘さんが幹事をしてくれていました。斎藤さんが確か体調がすぐれないとのことで急遽28年卒の寺田忠徳さんが幹事をしてくださいました。寺田さんは、ご存じの通り太っ腹の人で自腹でコースのスタッフ全員にいきわたるよう大量の手土産を持参するという律儀な幹事でした。それから31年卒の石井澄夫さんが幹事となり、コースも同期の原進さんのメンバーコースであります相武 CC に移り48回大会までの6年間そこで開催しました。その間、幹事は34年卒、37年卒そして現在の47年・48年共同幹事と引き継ぎ、幹事は個人ではなく学年で受け持つ色彩が強くなり、皆さんで盛り上げるようになっていきます。コースとして名匠井上誠一設計の鶴舞カントリーとか飯能グリーンカントリーとか一流のコースの発掘に苦慮しておられます。

2・参加者と成績

昭和20年代卒のOB中心の会員も発足時から現在も参加している学年は26年が最古参学年となってしまいました。25年卒までの参加は最近皆無となっていますが、その年代はすでに80歳を超えています。第10回大会からの参加ですが、輝かしい成績をあげているのが28年卒であります。個人の優勝回数でも28年卒の大久保亨さんが4回の優勝を果たしてダントツ、大久保さんは一高時代生徒会長を勤め、野球部の部員でもありました。また、大久保さんは現役時代上場会社の総会屋対策のスペシャリストとして産業界で名が売れていた人です。ベストスコアも28年卒石原市三さんのパープレー72で、35回大会で佐藤忠男さん（37年卒）1アンダーの71を出すまでの長い間破ることができませんでした。石原さんはかつて社交ダンスの日本チャンピオンで、

日本における社交ダンスの第一人者として君臨してきましたが、残念なことに昨年 11 月に急逝されました。

また、初めてホールインワンを達成したのが 32 年卒の深沢道尚さんでした。ホールインワンの記念品の 1 つとしていただいたのが深沢さんの奥様でおられる作家藤原緋沙子さんの時代小説の単行本でした。そんなこともあって忘れられない出来事でした。二人目の達成者は現在の幹事代表の島田三郎さん（48 年卒）、いずれも相武 CC でした。

第 2 回大会から団体戦が始まりました。当初はハンディ差も少なく、一番若手の学年でありました 38 年卒組が強く、3 年連続で入賞しました。それ以降最強の学年は、28 年組で実に入賞確率 50% 2 回に 1 回は 1 位か 2 位のダントツの成績でした。続いて 31 年卒組の入賞確率 25% 26 年卒組の 20% でこの 3 学年で入賞 95% と団体賞を独占してきました。

また、団体戦は学年上位 3 名の成績で決めますが、これまでのベストスコアは、35 大会のグロス 244、ハンディキャップ 40、ネット 204 という成績で、やはり 28 年卒組の皆様が打ち立てたものです。一人当たりに換算すると、グロスでも 81 ハンディキャップ 13 ネット 68 という驚異的な数字です。

以上は、大会のデーターをまとめたものですが、誤りがありましたらご寛容のほどお願い致します。

これから参加学年の数をもっと増やし、先輩後輩の交流と同窓の絆が感じられるコンペをさらに楽しいものにしていきたいと思います。

ゴルフとテニス

34年卒 望月 政男

錦織選手の全米オープンテニスは、日本中の人々にすごい自信と誇りを与えたと思います。何しろテニスはデビスカップを見てもわかるように、エリート白人のスポーツと思われていたところに、東洋人が決勝に進んだのですから。私は、甲府一高を卒業後テニス歴25年、ゴルフ歴25年で、テニス壮年の部に山梨県の代表として国体に出場しました。

「テニスをした人は、似たようなスポーツなので、ゴルフはすぐに上手くなる」という人がいますが、私は、まったく違いやもしかしたらテニスの正反対のスポーツがゴルフであると思っております。テニスの経験は、ゴルフの上達を妨げていると思っております。その違いを列挙すると

- ① テニスは、動いているボールを動いて打つ
ゴルフは止まっているボールを止まって打つ
- ② テニスは、ラケットを右から左に移動して二軸で打つ
ゴルフは、自分を軸として一軸の回転で打つ
- ③ テニスは、相手のボールのスピードを利用してラケットでボールを押し返して打つ
ゴルフは、ボールをヒットまたは叩いて打つ
- ④ テニスは、俊敏に動けるようにつま先で立つ
ゴルフは、足の踵で後ろ脚体重で立つ
- ⑤ テニスは、0 (love) 15 30 40 と足し算で進むスポーツです。
ゴルフは、バーディ イーグル アルバトロスと引き算でするスポーツです。
- ⑥ テニスはダブルスがあって協力し補完しあうスポーツであるが、ゴルフはいつも一人でする孤独なスポーツです。
共通点もあります。終わってからの爽やかさ ビールの旨さ それによき友 ゴルフに乾杯

日新会の力強い継続を願って

37年卒 廣池 哲夫

私が職場の先輩に勧められゴルフを始めたのはおよそ30年前です。某デパートのバーゲンセールに誘われ、14本のクラブとバッグと靴をそろえました。次の休日に勇んで家の近くの練習場に行きました。一夜漬けで読んだ小松原プロのレッスン書が頼りでしたが結果的には全く役立たず、空振り、ダフリ、チョロばかり。途方に暮れて、ちょうど通りかかったレスプロに教えを乞い一振りしたら曰く「あんた、そんな振り方ではあばら骨を折るよ。」きつとガチガチに力んで振り回していたのでしょう。幸い骨は折りませんでしたが、練習が身につかず、いまだ100を切って喜んでいる有様では骨折り損の何とかなしょう。

日新会のコンペの初参加は、金乃台カントリークラブ時代の第10回大会頃です。戸塚の自宅から120キロを2時間以上かけて都合4回ほど参加しました。そのあとは、富士河口湖、大月などが会場になりましたが、私は大月に1度出ただけで、ほとんど参加できませんでした。ちょうど、50歳代で仕事に追い回されている時代、ウィークデイの参加は憚られたと記憶しています。

第30回からは相武カントリーが舞台になるわけですが、最初の仕事を定年退職したころからは欠かさずにエントリーしています。そして、大会の幹事が寺田さん（28卒）石井さん（31卒）小森さん（34卒）と引き継がれてきた40回大会時の受付で「次の幹事を・・・」と声がかかりました。「3年周期で幹事役が引き継がれてきた。」とのことでしたが、先輩にお任せ続けるのも潔くないので37卒の皆に諮ってお引き受けすることにしました。少し前の35回、38回で同期の佐藤君、石綿君が個人優勝したことも、断れない理由ではありました。

それから3年間計6回の大会の事務局を両君のほか荒井君を含めた4人で切り盛りいたしました。その間、小森さんが手がけられた寄付金の処理については、先輩方のご理解をいただき、返還せずに「寄付基金」として大会運営の予備金に位置付けることに決めました。また、3.11の大震災直後の43回大会では、コンペの賞金を「あしなが育英資金」に寄付することも決めさせていただきました。

なお、前述の寄付基金の使途第1号が、45回大会に出た島田さん（48卒）のホールイン・ワン記念の祝い金でした。その島田さんに、3年毎の前例は守れませんでした。が幹事役を引継ぎさせてもらったのも何かの因縁かも知れません。今後、幹事学年が若干戻ることもあり得ると期待しながら、日新会ゴルフ会のたゆまぬ継続を強く願う次第です。

日新会を振り返って

47年卒 野中 章行

最初に日新会に参加したのは、確か2010年の5月の41回でした。その年は我々47年卒が東京同窓会の学年幹事の年で、私と渡辺君が広告部会で広告の獲得に躍起になっていました。何とか、広告を増やそうと考え、諸先輩方への協力をお願いしようと、日新会への参加を申し込みました。ところが参加してみると、卒業年度が20年以上の大先輩方々が多々参加しておられ年齢を感じさせないプレーと元気さに圧倒されました。

47年の我々より上の方での参加は、直近の方々が37年卒で10年以上の開きがあり、47年卒としては、圧倒的に有利に団体戦を進め。。。と考えていたのですが、優勝戦線にはかすりもしませんでした。「若さも、技には勝てなかった！」日でした。また、その会でのベスグロも確か、70歳近い大先輩でした。プレー後の懇親会におきましても、元気な諸先輩方のパワーに圧倒され続けていたのを覚えています。元気な諸先輩方と接し、諸先輩と言いますか、大先輩方とプレーを楽しみましたが、緊張と楽しさと、驚きとが入り混じった一日でした。

その頃の私のゴルフの目標は、「70歳になっても元気にプレーを！！」でしたが、ものの見事に崩れさりました。当然、小生の目標はその日より、70歳ではなく80歳に変更しました。「80歳になっても元気にプレーを！！」を目標に日々精進しています。

現在は、47年卒の取り纏めと48年卒との共同幹事として、会の今以上の継続的な繁栄を目標に、幅広い年代の皆様に参加していただきたく、参加者層の拡大に努めています。

17番 119yd ホールインワン

48年卒 島田 三郎

ガシャン！ 自分を含め、誰も（もしかしたらキャディさんも？）入ったとは思いませんでした。恐らくグリーンを超えて、奥のバンカーのレーキに当たったのではないかとの思いで、4人打ち終わったら直ぐにグリーン奥へ探しに。どこを見てもボールは有りませんでした。しばらくしてキャディさんがピンを抜こうとカップを覗いた瞬間「入っていますよ、タイトリスト！」そこでボールの行方は初めて分かったのです。

人生初のホールインワン、初のイーグル。さて大変だ。プロはホールインワンを達成すると、百万円の賞金をもらえるのに、アマチュアはどうして本人と一緒にラウンドしたメンバーへ記念品を贈らねばならないのか。幸い保険に入っていたので自分の財布は痛みませんでしたが、50人も参加者がいると結構大変ですよ。でもやりたくてもできないのがホールインワン。一緒に回ったメンバーには深く感謝します。

さて話は変わりますが、このホールインワンが一つのきっかけとなり、第47回大会から幹事をさせていただくことに成りました。今秋のコンペで4回目の幹事となります。50回という記念すべき大会になりますので昭和20年代卒の大先輩から平成卒の若い後輩まで皆様が楽しめる会にしていこうと、幹事一同いろいろ工夫を凝らしてきました。場所は初めての飯能グリーンカントリーですが、比較的平坦で思い切ってショットできるコースです。

さて、本日の50回記念大会はいかがだったでしょうか。

私たちが幹事になってからというもの、決して順風満帆な運営ではありませんでした。日新会を築いてこられた大先輩と我々では意見が合わないこともあり、これでは更に若い後輩たちに引き継いでいくことが難しいかなとも思うことがしばしばでした。現状では私たち（もう還暦）でさえ、日新会の中で最も若い世代となっています。平成卒の後輩たちに参加してもらおう為、また大先輩諸氏にもご相談の上、ご理解とご協力を賜われるよう運営してまいりたいと思います。

ついに女子の部優勝

48年 林野 妙子

5年前、第36回の日新会が私の初参加でした。ゴルフ初心者のため、緊張と不安で臨みましたが同じパーティの先輩のお力添えをいただき、無事にホールアウトできました。

相武カントリーといえば、私にとっては2番ホールが最大の難関です。池ポチャは数しれず、右の畑へOB、土手は難攻不落の砦のように私の前に立ちはだかっておりました。でも先輩方の技術面でのアドバイスはもちろん、メンタル面でのアドバイスも頂戴することができ、最近では何とかクリア。おかげさまで何回か「女子の部」で優勝することができました。

「女子の部」というのは、女性が5人以上参加した場合、成立するという決まりがあります。

「今日は絶好調！」と思っていたのに、女性参加者が4人のみで不成立というときもありました。これからは、女性多数の参加者の中で、優勝回数を重ねていきたいと密かに思っております。

今後、日新会のますますの発展のために、幹事として微力ながら大会運営に携わってまいりたいと思います。



48年同期恒例 軽井沢ゴルフ合宿 2014年9月24日

日新会

53年卒 小川 朗

レベルの高さにビックリ。これが日新会初参加の第一印象だった。各業界のトップを経験された先輩方は、ゴルフ経験も豊富。それがホールを重ねるごとに分かってきて、圧倒され取り乱した我が53年組はボロボロとなり、最下位近くまで転落した。

そんな初参加から3年がたち、3回の出場を経験。ドラコン賞をいただくラッキーにも恵まれ、最近はやや平常心に近い心境でプレーさせていただけるようになった。

それもつかの間、某大手商社の先輩から早期退職金が1億を超えたとささやかれただけで、大ダフリというのもいただけなかった。ゴルフ記者歴15年、オーガスタナショナルをラウンドした経験も、まったく生かせていないのだから情けない。

平日開催であるため会社を休めないことも多く、50回記念大会当日もオフィスのデスクに縛り付けられている状態。悔しい思いをしつつ、盛会を江東区の空の下でお祈りしております。

初めて参加した日新会ゴルフ

56年卒 小田切 仁

一高野球部の石坂先輩（54年卒）から日新会ゴルフの連絡がきたのが5月初めの頃でした。

山梨大学野球部の先輩でもある石坂さんの命令（？）に背くことはできません。二つ返事で参加させていただきました。2013年6月5日当日は、絶好のゴルフ日和。

私は角田さん（31年卒・野球部の大先輩）望月さん（34年卒・前同窓会会長）幹事の篠原妙子さん（48年卒）と回らせていただきました。私の母親と同じ年の角田さんのドライバーの飛距離に勝てず、望月さんの超安定したショットとパットに驚き、ついていくのが精一杯の私でしたが、そのせいか、近年にない85打という好スコアを出すことができました。篠原さんもよく話しかけていただき、緊張感の中でも楽しく、さわやかな一日でありました。

表彰式では多数の偉大な先輩方の雰囲気、『伝統の一高』を改めて感じました。成績はハンディに恵まれて8位をいただき、石坂先輩（10位）より上位になってしまい、すみませんでした。是非次回も参加させていただきたいと思います。

「日新会」ゴルフ開催記録

(小森 始(34年卒)氏 日新会25年の記録より)

《凡例》

開催回
開催年月
開催コース
個人優勝(卒年)
団体優勝(卒年)

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
2014年10月28日	1990年5月29日	1990年12月18日	1991年6月7日	1991年12月5日
昇仙峡CC	紫CCすみれコース	金乃台CC	金乃台CC	金乃台CC
萩原 啓(S25)	矢崎 仁一(S30)	千野 逸平(S26)	矢崎 仁一(S30)	小池 隆雄(S20)
競技なし	38年卒	12年卒	70才以上(混合)	18年卒
第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
1992年6月9日	1992年11月25日	1993年6月2日	1993年11月19日	1994年6月8日
金乃台CC	金乃台CC	金乃台CC	金乃台CC	金乃台CC
大久保 亨(S28)	野沢 仁(S26)	堀内 高(S38)	大久保 亨(S28)	竹内 紘司(S38)
20年A	26年卒	12年卒	26年卒	26年卒
第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
1994年11月15日	1995年6月8日	1995年11月8日	1996年8月4日	1996年11月12日
金乃台CC	金乃台CC	金乃台CC	金乃台CC	金乃台CC
関 博(S30)	仲田 忠雄(S28)	大久保 亨(S28)	小泉 晴一(S26)	関 博(S30)
26年卒	26年卒	28年卒	26年卒	28年卒
第16回	第17回	第18回	第19回	第20回
1997年6月13日	1997年11月7日	1998年6月12日	1998年11月6日	1999年6月8日
富士河口湖GC	富士河口湖GC	富士河口湖GC	富士河口湖GC	富士河口湖GC
堀内 高(S38)	大久保 亨(S28)	望月 政男(S34)	三井 一夫(S35)	角田 由和(S30)
25年卒	28年卒	26年卒	31年卒	20年卒
第21回	第22回	第23回	第24回	第25回
1999年11月6日	2000年6月9日	2000年11月9日	2001年6月5日	2001年11月14日
武蔵富士CC	富士河口湖GC	大月CC	大月CC	大月CC
岡島 康三(S31)	荒天により中止	堀田 ふつみ(S34)	横沢 十三雄(S13)	内藤 長和(S33)
28年卒		28年卒	20年卒	28年卒
第26回	第27回	第28回	第29回	第30回
2002年6月5日	2003年6月11日	2003年10月29日	2004年6月2日	2004年10月27日
大月CC	大月CC	大月CC	大月CC	相武CC
信田 厳根(S30)	伊藤 紀元(S33)	鳥居 日出男(S33)	角田 由和(S30)	鳥居 日出男(S33)
31年卒	28年卒	26年卒	31年卒	33年卒
第31回	第32回	第33回	第34回	第35回
2005年6月16日	2005年11月17日	2006年6月1日	2006年11月2日	2007年5月31日
相武CC	相武CC	相武CC	相武CC	相武CC
小森 始(S34)	成瀬 祐由(S33)	原 進(S31)	原 進(S31)	佐藤 忠男(S37)
28年卒	27年卒	31年卒	28年卒	28年卒
第36回	第37回	第38回	第39回	第40回
2007年10月29日	2008年5月22日	2008年10月30日	2009年6月4日	2009年10月29日
相武CC	相武CC	相武CC	相武CC	相武CC
雨宮 俊雄(S28)	佐野 高志(S42)	石綿 成行(S37)	成瀬 祐由(S33)	佐野 高志(S42)
28年卒	32年卒	28年卒	32年卒	28年卒
第41回	第42回	第43回	第44回	第45回
2010年6月3日	2010年11月25日	2011年6月2日	2011年11月2日	2012年6月1日
相武CC	相武CC	相武CC	相武CC	相武CC
第46回	第47回	第48回	第49回	第50回
2012年11月1日	2013年6月6日	2013年10月24日	2014年6月5日	2014年10月30日
相武CC	相武CC	鶴舞CC	相武CC	飯能グリーンCC
野中 章行(S47)	中澤 彬(S32)	佐野 高志(S42)	石川 國雄(S42)	
	31年卒	37年卒	42年卒	

個人優勝者名は敬称略

山梨県立甲府第一高等学校 校歌

1. 甲斐の國 み中に建ちて

古へゆ 雄心傳え
新しき 世の鑑とし
勉めてむ この學舎に

2. 日に新た また日に新た

彌高き のぞみをもちて
眞なる 理究め
勵みなむ 若人我等

3. 聳え立つ 芙蓉の高根

清き哉 甲斐の山川
もろともに 玉と磨きて
賛べし 天地の化育

編集後記

突然、思い立ったのです。「そうだ、50回記念誌を作ろう。」と。
大先輩方がこの日新会をつくられた経緯や25年の永きにわたり継続
されてきたその想いを私たちはしっかり受け継いでいるのだろうか？
そんな疑問が心の片隅にありながら幹事として2年目に入っていました。

この冊子の作成にあたり実に多くの先輩方から助けていただきました。
貴重なお時間を割いてお会いくださり創成期のお話や楽しいエピソード、
また同窓の愉快的な武勇伝をお聞かせくださった28年卒業の寺田忠徳先
輩、冊子の発行を心から喜んでくださり、数々のご助言とともに詳細な
データーをくださった34年卒業の小森始先輩、突然の原稿依頼にもか
かわらずご快諾くださいました執筆者の皆様に深く感謝を申し上げます。

この日新会を昭和50年代以降の後輩たちに正しく引き継ぐことこそ
が、私たち47年・48年共同幹事10数名の共通の願いです。この冊子
がその一助になれば幸いです。

記念すべき年に幹事をさせていただけたことに感謝しております。

篠原妙子（48年卒）

第50回記念 日新会ゴルフコンペ

後日お送り致します写真をお貼りください。

2014年10月30日

飯能グリーンカントリークラブに於いて

発行日 2014年10月30日

発行責任者 47年・48年共同幹事

幹事名

《47年卒》

野中章行 渡辺正文 依田淳一

塩野哲志 新津茂夫 天野二郎

《48年卒》

島田三郎 廣瀬昭仁 三神厚 八田政仁

林野妙子 石川久美子 篠原妙子